

れきみんコラム

たからもの
三春の地域と文化財⑦
御木沢地区②

御木沢の各地区の鎮守は、平沢が見渡神社、御祭が厳島神社(旧弁財天)、七草木が若草木神社(旧王子権現)です。寺院は、七草木に真言宗の阿弥陀院尊陽寺がありましたが、近年廃寺になりました。こうした関係で、七草木と御祭地区は、真言宗(現在は真照寺)の檀家が多いようです。これに対して、平沢地区に福聚寺の檀家が多いのは、満願虚空蔵堂や物外地蔵堂、さらに隣接する旧李田村の雪村庵などの別当を福聚寺がつとめ、江戸時代には子院もあったためと考えられます。

満願虚空蔵堂は、坂上田村麻呂を慕って都から追ってきた妹、あるいは源義家の援軍としてやって来た弟の新羅三郎義光が、旅の途中の平沢村で亡くなったので、その供養のために伝教大師最澄が作ったと伝わる虚空蔵菩薩像を祀ったといわれています。義光は亡くなる前に兄の必勝を祈願し、死後願いがかなったことから、願いごとが必ずかなう満願虚空蔵として、祭日にはたくさんの信者が訪れました。大勢の参拝者で、八島川に架かる橋が落ちそうになったので、橋桁をみんなで担いで渡したことから、担橋と呼ばれるようになったといひます。



満願虚空蔵堂

物外地蔵堂は、戦国時代から江戸時代初期に活躍した臨済宗の高僧・物外紹播に所縁の地蔵堂です。平沢出身の物外の母が、3年間お詣りして生まれたのが物外とされ、その徳にあずかろうとたくさんの人々の信仰を集めました。

厳島神社は、明治18(1885)年に改築された拝殿が合計144枚の格子天井になっています。そこには、氏子の方々がそれぞれに奉納した絵や書のほかに和算の図形などが描かれ、当時の三春周辺の文化を知ることができます。また、境内には高さ70cm程の大きな丈六焼きの天神像が祀られており、地域の子もたちの天神講などで信仰されたものと考えられます。

尊陽寺は、地域の集会所としても永年親しまれた寺でした。江戸時代に七草木の庄屋が再建し、本尊の阿弥陀如来坐像や2人の童子を従えた不動明王立像が寄進されました。一昨年、盗難に遭いましたが運良く戻ってきて、現在は歴史民俗資料館で、涅槃図や地獄極楽図といった貴重な絵画などといっしょに保管されています。また、七草木には、古くから伝説がある大きな岩が7か所にあり、「七草木の七ツ石」と呼ばれています。



厳島神社の天神像

広告欄

広告欄